# シュリー・クリシュナのマーヤーの性質

### 2015年8月16日

### シュリー・クリシュナ生誕祭

### スワーミー・メダサーナンダによる講話

### 於・逗子協会

今日は協会でシュリー・クリシュナのお誕生日をお祝いします。インドの暦では今年のお誕生日は本当は9月5日ですけれど今日お祝いします。

今日のお話のテーマは「シュリー・クリシュナのマーヤーの性質」です。さっきシュリー・クリシュナの生涯が書かれている『バーガヴァタム』を輪読してもらいましたが、その中に、いたずらっ子のクリシュナがあちこち動き回っていたずらしないように、母親のヤショダがクリシュナを縄で縛ろうとする話がありました。縛ろうとしても縄が少し短くて縛れないので縄を足すのですが、何回縄を足しても指2本分短くて縛ることができませんでした。何故なら、縄は有限の存在でシュリー・クリシュナの本性は無限ですから、有限の存在で無限を縛ることはできないのです。そのうちヤショダは疲れ果ててしまい、それを見たクリシュナは慈悲を与えて自分から縛られました。これがマーヤーの例です。

シュリー・クリシュナは歴史上の人物ですが、何年ぐらい前に生まれたかについては学者の間でも意見が分かれています。少なくとも、今から3500年前に生まれました。そんなに前に生まれたのですけれど、現在もシュリー・クリシュナは大きな影響を与えています。

シュリー・ラーマクリシュナの考えでは、神様の化身（アバター）はそれぞれ神様が現れている割合が違うそうで、例えば、ラーマチャンドラには神様が100％現れていませんでしたが、シュリー・クリシュナは100％現れていました。そして、シュリー・クリシュナには様々な姿がありましたが、その中でも、シュリー・クリシュナのマーヤーについてお話ししていきます。

マーヤーのことは、『ラーマクリシュナの福音』の中にいろいろと出てきますし、ヴェーダーンタ哲学の中でも数多く論じられています。シュリー・クリシュナのマーヤーとはどのようなものでしょうか。『バガヴァッド・ギーター』の第7章14節を見てください。

「世の人々が、これら三性質から成る私の幻象に、惑わされずにいることは非常に難しい。だが私にすべてを委ねて帰依する人は、容易とその危険を乗り越えられるであろう。」

神様のマーヤーはとても複雑で分かりにくく、普通の人にはマーヤーの影響を消すことはとても難しいです。マーヤーとは、自然の三性質（グナ）でできています。1つ前の13節を見てください。

「世の人々は、自然の三性質から形成された万有に幻惑され、私がこれら三性質を超越した、無限不滅の存在であることを知らない。」

三性質とは、サットワ、ラジャス、タマスで、これらがマーヤーを作っています。サットワ、ラジャス、タマスとは何でしょうか。タマスはいつも鈍く、動かず、怠けている状態で、時折暴力的にもなります。ラジャスは野心的、活発な状態で、欲望や執着があります。サットワは、清らか、親切、真実、普遍的な愛、非利己性です。この三つのグナで作られたマーヤーの影響で、すべては幻惑されています。また、三つのグナで皆さんは縛られてもいます。どのように縛られているのか、14章5節から8節までを見てください。

「サットワ、ラジャス、タマスの三性質は、すべてプラクリティから生じ、不滅の霊魂（魂）を体にしっかりと縛りつけているのだ。勇者アルジュナよ！」

「これらの中でサットワは、清らかで光り輝く無垢の性質ではあるが、幸福を求め知識に憧れるということで肉体をまとった魂を束縛する。おお、罪無き者（アルジュナ）よ！」

「またラジャスは、情熱の性質であるが、欲求と執着の心を生じ、人を物質的利益のある仕事に縛りつけることを知るがいい。おお、クンティー妃の息子（アルジュナ）よ！」

「さらにタマスは、無知から生じ、肉体を持つあらゆるものを惑わすし、誤解、怠惰、多眠という性向によって、人の霊魂を縛りつけてしまう、ということを知るがいい。おお、バーラタ王の子孫（アルジュナ）よ！」

霊的な実践をして心が幸せに満たされている純粋な喜びの状態ははとてもいいものですが、その状態が最高の状態ではありません。求道者が霊的実践をたくさん行い、霊的レベルがとても上がってサットワ的な状態に入っても、それが最高の状態ではないのです。パタンジャリの『ヨーガ・スートラ』の中にも、悟りの障害の1つに、サットワ的状態に入って大きな喜びと平安を経験しそれで十分だと考えてしまうことが挙げられています。

実は、3つのグナを超越しないと、最高の状態である解脱はできません。第14章20節を見てみましょう。

「肉体をまとった霊魂が、その肉体を発生させる三性質を超越した時、誕生と老と死の苦より解脱し、物質界にいるうちから不死の状態を獲得するのだ、と。」

『福音』の第10章に、3つのグナを3人の盗賊にたとえた話がありますね。3人の盗賊が、森の中を歩いているお金持ちから持ち物すべてを奪いました。1人目の盗賊は「こいつを殺してしまえ」と言い、2人目の盗賊は「殺さないで縄で縛った方がいい」と言いました。そこで、3人でお金持ちを縛ってそこを去りました。少しして3人目の盗賊が戻ってきて、「大変でしたね」と言って縄をほどき森の外まで連れて行き、家への道を教えました。金持ちは、「一緒に来てください。家で何か食べさせてあげたい」と言いました。盗賊は、「もし家まで行ったら警察に投獄されるでしょうから、行けません」

この物語の教えは、サットワ、ラジャス、タマスはみな盗賊だということです。盗賊の中には親切で優しい者もいます。最初の「殺した方がいい」と言った盗賊がタマス的で、人を鈍い状態にしようとします。2番目の「縛った方がいい」と言った盗賊がラジャス的で、欲望と執着で人の魂を縛り、無知の状態に留めます。最後のサットワの盗賊は、人を清らかで純粋な状態に導きますが、それも最後の状態ではありません。幸せはサットワ的な状態ですが、超越しないと、またサットワからラジャス、タマスの状態に戻る可能性があります。例えば、たくさん霊的実践をして霊的レベルがとても上がっても、悟りにまで達しないとまた堕落する可能性があります。聖者の中にも、そのような例があることがヒンドゥー教の聖典の中に数多く出てきますね。

シュリー・ラーマクリシュナはとても面白いことに、マーヤーを、アヴィディヤー・マーヤーとヴィディヤー・マーヤーの2つに分けました。アヴィディヤー・マーヤーはラジャスとタマス、ヴィディヤー・マーヤーはサットワです。最初はヴィディヤー・マーヤーでアヴィディヤー・マーヤーを取り除きます。つまり、サットワ的な性質を実践して、ラジャスとタマスの性質を取り除きます。しかし、ヴィディヤー・マーヤーも鎖ですから取り除かないといけない。タマスは鉄の鎖、ラジャスは銀の鎖、サットワは金の鎖です。金の鎖でも自由はないですから、切らなければいけない。

シュリー・ラーマクリシュナはこのことを、トゲの例を使ってとても分かりやすく説明しています。皮膚にトゲが刺さったら別のトゲを使って抜いて、その後両方のトゲを捨てます。抜くのに使ったトゲは取っておかずに捨てますね。ラジャスとタマスというトゲが自分の中に入るのでサットワのトゲでそれを抜き、両方のトゲを捨てるのです。

シュリー・クリシュナがナーラダにマーヤーについて教える話があります。ナーラダがシュリー・クリシュナに「マーヤーとは何かを知りたいです」と頼みました。シュリー・クリシュナは何も答えませんでした。ある日、2人で散歩をしていると、シュリー・クリシュナが言いました。「ナーラダ、とても喉が渇いたので、水を持ってきてくれないか」そこで、ナーラダはある田舎の家へ行って、「水をください」と言いました。ナーラダの声を聞いて、とても美しい若い女性が出てきました。ナーラダはこの女性を見て恋に落ち、シュリー・クリシュナのために水を貰いに来たことをすっかり忘れてしまいました。何回もその家に行き、女性の父親に「お嬢さんと結婚したい」と言いました。両親の許しをもらい、ナーラダはその女性と結婚してそこに住み、やがて3人の子供の親となりました。しかし、ある時洪水が起こって家が流され、家族もろとも水に飲まれました。ナーラダは奥さんと子ども達の手を握りましたが、水の流れがとても強く、1人、2人、3人と子供が流され、最後には奥さんも流されてしまいました。ナーラダは大声で泣きました。すると、突然声が聞こえてきました。「ナーラダ、ナーラダ、水はどこだ」ナーラダが周りを見ると、何もありません。水もなく、家もなく、シュリー・クリシュナだけがいました。マーヤーとは何かを知りたいというナーラダの頼みに、シュリー・クリシュナはこうして答えたのです。

ナーラダのように霊的レベルの高い聖者でもマーヤーに翻弄されることがあるのですから、マーヤーの力がどれほど大きいか分かりますね。事実、私たちは皆マーヤーにいつも幻惑されています。しかし、結局のところ、マーヤーとは慈悲深き母なる神であり、苦しい状況を作り出して私たちをそこに置くことで、私たちが世俗の喜びを退けて解脱を求めるように仕向けているのです。

私たちにとってマーヤーの状態はとても大変ですから、神様への祈りがいつも必要です。『福音』の中に、ラーマから願いを叶えてあげると言われたナーラダが、「あなたのマーヤーで世界は幻惑されています。マーヤーの幻惑から私を守ってください」と答えた話が出ています。それが私たちに必要な祈りです。イエスも、同じような祈りをしていますね。「私たちを誘惑に逢わせず、悪いものから救ってください」私たちは、マーヤーの影響から自分の身を自分で守るのは難しいですから、祈らないといけません。

浄らかに、純粋になるための実践を行うことは大切ですが、もう1つ、神様に「あなたのマーヤーから私を守ってください」と祈ることも解脱には必要です。最初はアヴィディヤー・マーヤーをヴィディヤー・マーヤーで取り除かなければなりませんが、最後はヴィディヤー・マーヤーも超越しないといけないのです。

さっき読んだ『バーガヴァタム』の中に、シュリー・クリシュナが土を食べたのでヤショダがクリシュナの口を開けて土を取り出そうとすると、口の中に宇宙を見た話がありました。その時、シュリー・クリシュナの本性は神様だとヤショダは理解しました。でも次の瞬間、シュリー・クリシュナのマーヤーでヤショダはクリシュナの本性を忘れてしまいます。シュリー・クリシュナが本当は神様だ、ブラフマンだと信者がいつも考えていると、クリシュナは神聖な遊びができません。神様は遊びが好きなので、ある瞬間、自分の本性を見せ、次の瞬間、自分のマーヤーでそれを忘れさせます。そうでないと、自分が遊ぶことができないからです。

先ほどの『ギーター』の第7章14節にもありましたが、神様の本性を理解し神様にお任せすれば、マーヤーを取り除くことができるのです。そうしないと、ヴィディヤー・マーヤー、アヴィディヤー・マーヤーの両方のマーヤーの影響で、幻惑された状態がなくなりません。これが、『ギーター』の教え、シュリー・クリシュナの教えです。